



介護する人も「孤立させない」見守りと連携

南丹市にあるゆう薬局の女性管理薬剤師 Iさんは病院薬剤師から転職した大ベテラン。「患者さんと直にかかわり、悩みごとや思いの支え手になれる。それがうれしいです」と話します。

つい先日こんなことがありました。長く思う夫の薬を定期的に受け取りに来る70代の島さん(仮)。ある日いつもと違う大儀そうな様子が気になり、Iさんが「体調が悪いのでは？」と声をかけると、思いがけない返事が。自身にガンが見つかり、医師から即入院・手術と言われたものの、夫を一人にするわけにはいかず、自身も体が辛くなり、「どないしょ」と夜も眠れず悩んでいたと言っています。

「島さんに安心してできる環境で治療に専念してもらいたい」と、Iさんはご主人のケアマネージャーに相談。訪問したケアマネージャーは、夫のショートステイ先を手配するなど島さんの入院準備を進め、島さんは無事手術を受けることができたそうです。「島さんは外出先で遅くなると、夫が待つて

いるから早よ帰らんと」と涙目になるほど夫思いの方。夫にも頼られて、自分がシンドイとは言えなかったのでしょうか。そう Iさんは思い返しました。

介護する側は自身のこととは後回しになり、孤軍奮闘に陥りがちです。だからこそ共倒れになる前に気づいてくれる存在や、悩みを口にできる信頼関係が大事なのです。

「普段から患者さんと会話を重ね、薬の服用や日常の様子をお聞きしているので、小さな変化にも気づいて対応できる。病気をみるのが病院なら、患者さんの生活を見守ることができなのが街の保険薬局なんです。この使命に背すじが伸びる思いです」。

ゆう薬局では日ごろから医療や看護、介護、社会福祉協議会などと連携をとり、チームで患者さんを支える取り組みや健康相談にものっています。「お変わりありませんか？」と声をかけ合い、高齢になっても住み慣れた家で安心して暮らせる。そんな地域づくりの一員として、ゆう薬局の薬剤師は患者さんと真摯に向き合っているのです。



なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。

豆知識

薬局・薬剤師と地域医療連携

原則同じ所属施設の職員でケアが提供される入院医療とは異なり、地域に暮らす方々には複数の事業所や関係者が関わっています。薬局では日々、そのつなぎ目を意識した連携・協力を行っています。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
 ●京都市左京区浄土寺下馬場町106

もよりバス停は「錦林車庫前」

KBSラジオ
 “サウンド版ハンケイ500m”
 の番組内にて、ゆう薬局の
 ラジオドラマを放送中!
 毎週土曜17時~18時!